

白河市行政改革推進委員会 令和元年度第3回委員会会議録（要旨）

日 時	令和2年2月20日（木） 午後1時30分～午後3時00分
場 所	白河市役所 第二応接室
出席者	委員6名 和知裕幸委員長、入谷みちこ委員長職務代理者、芳賀幸子委員、鈴木長一委員、市川淳一委員、三浦徹委員
欠席者	小磯厚子委員
白 河 市	<p>【議事1 4名】 木村総務部長、常松総務部参事兼経営改革推進室長、鈴木経営改革推進室主幹兼室長補佐兼係長、坂上主査</p> <p>【議事2 6名】 室総務部参事兼財政課長、遠藤財政課主幹兼課長補佐兼管財係長、根本主任主査、常松総務部参事兼経営改革推進室長、鈴木経営改革推進室主幹兼室長補佐兼係長、坂上主査</p>
<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3-1 議事</p> <p>■議事1： 白河市行政経営改革プラン（案）及び答申について 【事務局よりプランの訂正箇所（提供力→サービス力）等について説明】</p> <p>（異議なし）</p> <p>（市長入室）</p> <p>4 答申</p> <p>5 市長挨拶</p> <p>（市長退室）</p>	

3-2 議事

■議事2： 白河市公共施設個別施設計画基本方針（素案）について

【事務局より説明】

委員 除却・解体・廃止の違いは何か。

事務局 解体は施設を取り壊すものである。除却と廃止は、ほぼ同じ意味であり、計画年度には現在の用途はやめて、新たな用途の検討や解体を含めた検討を行うものである。

委員 解体の場合は計画年度まで放置するということなのか。

事務局 最低限の管理を行うが、大きな修繕は行わないこととなる。

委員 廃止と改築はどちらを優先するのか。

事務局 施設の状況によって判断するが、多く利用されていれば改築の検討が必要であり、逆にあまり利用されていなければ廃止の方向で検討する。

委員 庁舎などに他の機能入れて、施設の複合化を図ることについて、サービスの低下につながらないか心配である。

事務局 人口が増えていた時期に公共施設も増えていった。この計画は、今の人口規模での適正な施設数や面積を考えるべきという趣旨で策定している。
これから収入が減っていく中で、行政サービス維持しながら、本当に必要な施設を検討する選択肢として、複合化も含め検討しなければならない。

委員 白一小の生徒数などの状況はどうなっているのか。

事務局 生徒数は300人程度となっており、来年度より着工する白二中の建設の後、今後の検討をすることになっている。

委員 東文化センターについて、以前NPO法人カルチャーネットワークが施設管理を行っていた時代は、イベントの企画がされており利用者も多かったが、現在は貸館がメインとなっているため、利用者が少ないという原因も考えられる。コミネスとの兼ね合いもあると思うが、施設の集客努力にも配慮して判断する必要があると考える。

事務局 利用状況を見ると、棚倉町や浅川町の利用者が多くなっている。市民の利用のためにはある程度の公費負担が必要であるが、市外の方の利用のために市民の税を多く投入している状況が続いていれば、見直さなくてはならない要因となる。また、運営に関しては、現在管理している株式会社ひがし振興公社は、温泉も管理しているため、温泉部門と連携しながら利用者を増やす努力や従業員の連携・協力を行っている。

委員 人材育成センターにある会議室は同じような場所が多いので、維持するのであればその施設に合った講習会などを開いたりして有効活用しないと意味がないのではないか。

事務局 指摘のとおりいかに有効活用するかが重要であり、同じ用途の施設が多ければ別な用途への転換も含め検討しなければならない。

委員 近隣町村が利用するような施設は自治体が連携して管理する方法はないのか。

事務局 近年そういった発想により給食センターなどを広域で管理している事例がある。

委員 この計画については、もっと早い段階で整理していてもよいのではないかと感じる。

事務局 今後、各地域で説明会を開いて計画の策定を進めていく。

■議事3： その他

【事務局より説明】

6 閉会